

釜といふ所がある。沖に義經の食物を煮た釜と稱する岩石のあるを以てその名を得る。

キヨウバン 京判 ↓キヨウマス 京升。

キヨウビンコウ 恭敏公 加賀藩主第十四代前田慶寧は神葬により、恭敏公と諡せられた。外に佛式では松蔭院慶寧良秀大居士といふ。

キヨウウブ 刑部 越登賀三州志に因至郡淺生田城址のことを書いて、『近里薄野村に刑部と今號する民あり。四柳氏にて此城主の後といふなり。』とあるが、今刑部は薄野にあらざして椋見に居る。蓋し後世移住したのであらうか、或は越登賀三州志の誤であらう。

キヨウウバシ 刑部橋 ↓アカネヤバシ 茜屋橋。

キヨウホウキブン 享保紀聞 三册。享保録と同体裁の雜記だが、序跋はない。卷末に寶曆七年六月五日書寫濟宮城氏とある本がある。

キヨウホウキユウセキシラベ 享保齋跡調 享保十年領内村々の齋跡等を書上げしめたもので、元祿・寶永の調査に次ぐ所のものであるが、完全な留書は傳はつて居ない。

キヨウホウジ 慶法寺 因至郡新崎に在つて、眞宗東派に屬する。

キヨウホウロク 享保録 七册。一名止齋正記、熊谷敬直著。元祿以降享保年間までの前田氏に關する事蹟を多く輯録し、その話者の名をも挙げてある。寛文中の長家に於ける浦野孫右衛門事件も詳記せられる。享保九年源淳信の序があり、淳信が多少原本を改削した跡も見える。徳川吉宗の事を書いた享保録と混ぜしめない爲に、御國享保録といふこと

もある。この中享保元年から八年に至る分に、享保年間之記と題して四册にしたものもある。

キヨウマス 京升 京判ともいふた。文祿三年六月豐臣秀吉の定めた升で、方五寸、深さ二寸五分、即ち積六十二方寸五のものであつた。慶長九年八月朔日の藩令に『新酒之事、九月より二月まで、上々酒京判一升に付て、八木一升五合宛たるべき事』とあるもの、即ち是である。

キヨウマチバシ 京町橋 金澤橋梁記に、『京町橋、茶屋町』とあるが、今は絶えた。愛宕一番町にあつた石橋である。

キヨウモリミヨウジン 京森明神 鹿島郡笠師に在つた小社。大伴家持を祀る。社地に塚があつて里人は家持の墳だといつてゐるが、岡より妄誕である。

キヨウユキヨク 教諭局 前田齊廣は文政七年春教諭局をその隠棲竹澤御殿内に設け、

組頭中から十二人を選んで局員とした。その中杉野盟、岩田盛照、笠間定慈は三老、山本守令、寺島寛、太田盛一は三才といはれ、他の六人は津田居方、笠間以信、堀善勝、坂井克任、松原在之、神田保益であつた。齊廣こゝに日々彼等を會し、政治の得失、施設の先後を論じたが、久しからずして病に罹つて卒し、教諭局も亦廢した。

キヨウラクジ 慶樂寺 因至郡中居に在つて、眞宗東派に屬する。山號は潮音山。

キヨウラクジ 敬樂寺 河北郡池原に在つて、眞宗東派に屬する。

キヨウリツ 杏立 字は士立、通稱敏次郎。凡山は其の號である。富山の人。初め大野介

堂に學び、後昌平殿に入り、林述齋・鹽谷岩陰を師とし、經學に通じ、詩賦に巧みであつた。立、天保十五年富山藩の爲に文武の制度を獻策し、文久二年廣徳館の祭酒に轉じ、次いで慶應三年藩主前田利同の師範となり、聲名閣藩を隱した。是に於いて四年加賀藩は之を聘して食祿百石を與へ、明倫堂教授加人としたので、立は爲に學政に就きて建議する所多かつた。明治二年十一月前田家編輯方頭取となり、以て九年十一月に至つたが、後郷に歸り、十八年五月歿した。年六十八。凡山遺集がある。

キヨエン 學遠 ↓サイダヤキヨエン 才田屋學遠。

キヨカネ 清金 石川郡中奥郷に屬する部

キヨカネヤラクコ 清金屋樂乎 金澤の俳人。大坂屋眉山に學び、翠暈又は小春庵と稱し、後元祿の昔小春の有した白鷗齋の額をその子孫から譲受けて、白鷗齋二代を稱した。文政以前の人。

キヨクオウザツシ 旭櫻雜志 水戸浪士の越前敦賀に於いて加賀藩に投降した事件が終局した後、監軍永原甚七郎以下十四人の編集したものであるが、執筆したのは石黒堅三郎と歸山仙之助とである。浪士が筑波山に擧兵してから、京都へ上る爲に行軍した間の日々の行動を、浪士自身の日記によつて集録したもので、元治元年六月十九日から、翌年正月九日までにかけてである。

キヨクコウ 玉香 ↓バイレイキヨクコウ 梅嶺玉香。

キヨクコウ 玉岡 ↓ニヨサンキヨクコウ

如環玉岡。キヨクサンイン 玉環院 大聖寺藩主第十一代前田利平の女某の法號。詳しくは玉環院妙鏡自光童女。

キヨクケンゼンシキ 極死善色 一册。加賀片岡乞色軒復禮と署名してある。町人戸水屋善兵衛が妓古今と、比川法島河原に情死したことを述べたもので、この情死は享保十六年四月四日であつた。文章の入文字屋張りであるのが珍しいものである。題名は守死善道といふ辭に倣うて、生命を愛に代へたといふのである。

キヨクシユウブンシユウ 玉淵文集 三十册。紀伊の人谷井敬英著。著者は少年より全く癖者であつたが、學に志すこと深く、最も詩文を行ふに敏速であつた。晩年金澤に再遊し、楠部屋芸菴の家にとり、嘗て作つた漢文百七十編、七言古詩六百、五言排律二百、七言律四百三十六首を集め、富田景周の序を添へ、文化十三年秋に成つたものである。

キヨクシユボウ 玉壽坊 羽咋郡蒲谷に在る。日蓮宗に屬し、妙成寺の塔頭で、天正十一年玉壽院日妙の創立に係る。

キヨクシヨウイン 玉影院 大聖寺藩主第九代前田利之の子遺酒次の法號。詳しくは玉影院光嚴宗眞童子。

キヨクシヨウイン 玉照院 大聖寺藩主第十四代前田利徳の側室玉木氏の法號。詳しくは玉照院妙映日樹大姉。

キヨクシヨウジ 玉照寺 羽咋郡千路に在つて眞宗東派に屬する。

キヨクスイ 玉髓 ↓メノウ 瑪瑙。

キヨクスウテイシヨウダイヤク 極數定象